

【水の作文大賞】

あつて当たり前だからこそ

熊本県 山都町立蘇陽中学校 一年 後藤 希羽

水。それは、私たちの生活に欠かせないもの。ないと生きていけない大切なもの。みなさんは、そんな水を考えたことがありますか。

毎年、四月中旬。我が家ではお米づくりが始まる。そうはいっても急に田に植え始めるわけではない。まずはなえづくりからだ。育苗箱にどろ、お米のもと、肥料、そして水を入れてハウスにならべていく。私の家では、百五十個分ものなえをつくっている。これをていねいに育ててなえをつくる。そのためには、毎日朝と夕に水をやるということも大切なこうていの一つだ。また、私の家では祖父がお米を作っている。朝の六時前から水をやり、夕方の五時頃にも水をやっている。その作業を四月から五月にかけて行っている。

私は、祖父に、「なんでこんなに何回も水やりするの。」と聞いたことがある。すると祖父は

「おいしい米ばつくるためだ。熊本の水ばやるとおいしか米ができるよ。」と答えてくれた。私はその時、「熊本の水とほかの水ってちがうのかな。」と思った。

あとで調べて分かったことだが熊本の水は地下水のため、あまり消毒をせずに飲めて、すごく新鮮なんだそうだ。

ふと、私は夏休みのことを思い出した。いとことご飯を食べていたときのことだ。一口食べた時に

「ん、うまい！甘い。」

と聞いていた。私は普段から食べているし、いとこも、私の家のお米を持って帰って食べているはずだ。「何がそんなに違うんだろう。」私はそう思って聞くところ、

「水なんじゃない。朝水道水を飲んだときも全然違っておいしかったもん。」

えると祖父の話とつながった。普段、あまり考えることのない水。あつて当たり前な水。私はこの時、初めてしっかりと水について考えてみようと思った。

その後、いとこはごはん五杯分のお米を食べ、とても満足しているようだった。祖父やお米をたいした祖母もとてもうれしそう、みんな笑顔だった。

私は、お米を炊くための水でこんなにも味が変わるんだなと思った。しかもそのお米、水の二つでこんなにもみんなが笑顔になって家族が一つになるんだなとも思えた。もちろんおいしかったのはお米かもしれない。けどその裏にはたくさんのお水がかわれており、水が全てを支えているといってもいいくらいだろう。そんな大切な水。しっかりと水について考えてみると「こんなにも深く考えられないんだな」と感じた。

ここまでで前の私は終わっていた。今、思い返してみるとなぜその先を考えなかったのかと不思議に思う。

私は、この先について考えてみようと思った。

水。それは、私たちの生活に欠かせないもの。ないと生きていけない大切なもの。あつて当たり前なもの。だからこそ一人ひとりがしっかりと考えなければならぬ。「節水をしてみよう。」「水について調べてみよう。」といった小さなこと。私達にもできること。私達にしかできないこと。みんなと協力したらできそうなこと。常に考え続けるのは難しいかもしれない。

ふと思いついたときに少しでも自分から行動していく、私は、これがすごく大切だと思ふ。

そんな私は、今年、お米づくりが始まってきた今。祖父の手伝いを積極的にしたり、祖母に変わってお米をたいしたりして行こうと思う。

みんなで水についてもっと深く考えていこう。そして行動していこう。少しずつ。